

第2回（仮称）「漱石山房」記念館整備検討会議事 要旨

■ 日時 2012年9月9日（日） 13時30分至16時30分

■ 場所 榎町地域センター多目的ホール、区立漱石公園

■ 出席者

委員 中島（座長）、石崎、半田、山岸、牧村、伊藤、沖山、中村、田中夏山、貝田、志村、清水、桐生、江木、伊藤、江田、小林（浩）
小林（智）、松林、三又、百足山、八重樫、吉川、川嶋 各委員
事務局等 加賀美地域文化部長、安河内榎町特別出張所長、吉川みどり公園課長、橋本文化観光課長、石塚文化資源係長、北見主任主事（学芸員）、小泉主任主事、株式会社丹青社

■ 欠席者 中川副座長

■ 内容

1 開会

- (1) 中島座長より開会を宣言
- (2) 前回欠席の八重樫委員より自己紹介

2 前回のふりかえりと本日の予定

- (1) 中島座長より、前回の内容と本日の予定について確認があった。また、議事要旨と検討会通信を作成し、検討会のエッセンスを発信していくことについて確認があった。
- (2) 事務局より以下の説明があり、確認された。
 - ① 議事要旨と検討会通信は、それぞれ区の公式サイト等で公開し、検討会の様子を発信していく。また、検討会通信は、榎町特別出張所、榎町地域センター等にも配布する。
 - ② 議事要旨は内容に誤りがないか、公開前に各委員にご確認いただく。
 - ③ 議事要旨には、自由に意見交換をしていただくために発言者の氏名を載せない。
 - ④ 第1回議事要旨については、訂正がある場合は、9月14日までに事務局に申し出ていただく。

3 基本理念について

- (1) 事務局より、資料「施設整備の基本理念について」に基づき、基本理念について説明した。
 - ・新宿区では、まちづくりの基本目標として平成19年に策定した新宿区基本構想・総合計画の中で、「文化芸術創造のまち新宿」という大きな柱を掲げている。区が最も重要な文化資源のひとつと考えているのが「漱石山房」であり、新宿区の史跡に指定している。その漱石山房の復元の取組みは、平成24年度からの新宿区第二次実行計画の中に、区の重要施策と位置付けられている。施設完成は漱石生誕150周年に当たる平成29年2月を目途としている。
 - ・全国の漱石ゆかりの地に記念施設や旧居等があるが、本格的な展示機能や事業展開を含む施設運営を行う漱石の個人記念館としては、全国初の施設となると考えている。
 - ・8つのコンセプトについて

「漱石山房」という土地の記憶を継承する場
漱石を読み、学び、味わう場
漱石や「漱石山房」に関する情報発信の拠点
漱石や木曜会に集った弟子たちに関する情報収集・研究拠点
多様な人々が集う文化観光の拠点
地域の歴史や文化の継承・発信の拠点
地域の憩いの場
様々な世代が集い、交流する場

(2) 中島座長より、「上4つのコンセプトは、文学館あるいは漱石山房記念館としての機能の話、下4つは新宿区の、あるいは地域の施設としての様々な活用の話というように分けられるだろう。限られた資源の中で8つのコンセプトを同じレベルで推し進めようとする、齟齬が出てくる。この8つのコンセプトのバランスをとりながら、さまざまな条件の中でどのようにより良いものにするかがポイントとなってくるだろう」との発言があった。

4 基礎調査の概要報告

(1) 事務局より、昨年度実施した「漱石山房」の復元に関する基礎調査について、資料「「漱石山房」の復元に関する基礎調査の概要について」により、調査の目的や実施方法、調査の結果分かったことや今後の課題について概要を紹介。

5 整備予定地の概要説明

(1) 事務局より、整備予定地である区営早稲田南町第3アパート及び区立漱石公園の両敷地について、資料「整備予定地に関する諸条件について」に基づき、都市公園法や建築基準法、東京都建築安全条例などの関連法規について説明。加えて、区立漱石公園は維持することを原則とし、必要があれば、公園の配置や形状の変更、若干の面積変更により（仮称）「漱石山房」記念館の整備を行うという区の考え方を説明。

(2) 中島座長より、「こういうものを建てたいと考えても、色々な条件、制約があるということが分かった。一番大きい要素としては、現在ある漱石公園を廃止して、すべての敷地を使うというのは難しそうだということ。施設の面積については、地下を掘れば高さが抑えられるので日照の問題は生じないが、今度は資金面の問題も出てくるかもしれない。また、木造の旧居をいわゆる雨ざらしのような形で外に出す場合は、色々と法律上の制約をクリアしなければならないということがわかった」という発言があった。

6 3～5に関する質疑・意見（要旨）

- 漱石という人物は、漱石山房で約10年間暮らし、優れた作品を生み出し、門下生と交流した。このような伝記的なこととともに、漱石の作品に興味を抱き、その感動を持って記念館を訪れるということもある。そうすると、漱石に関連するエリアを牛込・戸塚地区から新宿区という広いエリアに、拡大して考える必要がある。例えば、喜久井町界限や夏目坂は、『硝子戸の中』という随筆の中で、生まれた場所の記憶としてかなり掘り起こされている。また、神楽坂界限で言うと、『それから』の主人公・代助が住んでいたのは袋町辺りであったり、『坊っちゃん』の中には毘沙門天が出てくる。あるいは、『道草』という自伝的小説の登場人物たちの記憶としても、やはり神楽坂が出てくる。

同じく『道草』の中では主人公・健三の幼児期の回想の中で、内藤新宿の遊郭・妓楼、また太宗寺という有名なお寺が出てくる。さらに『門』の宗助と御米の借家も早稲田界限にあったようだ。資料に「牛込・戸塚地区ではじめての歴史・文化施設として、地域の歴史や文化の紹介についても行う」とあるが、漱石文学との関係においては、牛込・戸塚地域から広げていかないと、新宿一帯についての文化歴史についての知識がアンバランスになってしまうという危惧を抱いている。これは建物の復元からは離れるが、情報の収集発信という観点からかなり力を入れてやらないといけない。記念館を訪れて、そこから区内の漱石や漱石文学のゆかりの地に足を伸ばすということが重要なのではないかと感じた。

- 基本理念・コンセプトについてもう一つ考えてほしいのは、最近漱石に新しい読者が生まれたこと。姜尚中氏の『悩む力』は上巻だけで100万部出ている。これはマックス・ウェーバー等と比較して書かれた漱石の新しい見方で、100万人の読者がいるということは、新しいニーズがそこにできた、新しい漱石の見方というのができたと言えるかもしれない。著者の姜氏も、ある意味で非常に葛藤を持った国際的な人間であるが、漱石については、これからますます国際的な関心が高まるのではないかと思う。いかに漱石というのが、日本人が考える以上に国際ブランドであるか、その国際ブランドをどう発信していくかということも、付け加えていただければと思う。
- 整備予定地に関する諸条件について、バリアフリー関連法規において、博物館・美術館には必ず駐車場を設けなければいけないのか、それとも、駐車場を設けるという判断をした場合に、車椅子専用の駐車場を設けなければならないのか。どちらなのか確認したい。
→（事務局）確認して回答する。
- 整備予定地に関する諸条件についての説明から、完全に復元するには色々と制約があるということだった。また、基礎調査によって旧居の書斎・客間については詳細に調べられているが、その他の部分に関しては先程の説明があった資料以外にないということは、現実的には山房（書斎・客間）以外を復元するのは不可能ではないのかと思う。そうすると、記念館の中に山房（書斎・客間）を忠実に復元するという方法しかないのではないか。その方向性でこれから検討していくと考えてよいのか、それとも、旧居全体の復元の余地もありえるのか。
→（事務局）第4回以降の検討会で委員の皆様为重点的に検討いただきたいテーマである。今のところ、どちらと決定されているということではなく、こういう考え方があるということ、現状の課題等の中で整理したということでご理解いただきたい。
- 基本理念からは、全体的にまじめな、かたいイメージの記念館という印象を受ける。コンセプトのひとつにあるように、さまざまな世代や多くの人に集ってもらいたいのであれば、例えば、イギリスの古城でやっているような、当時の衣装を体験できるようなコーナー、あるいは、猫の墓に葬られている愛犬のヘクトーや小説『文鳥』の文鳥などのキャラクターを活かすような、子どもたちに親しまれるような展開を考えるのもよいと思う。基本理念を見ていると、「文豪・漱石」というイメージが強い。ゆるキャラまで作る必要はないと思うが、そういったところから口コミで多様な人が集まる場になるということもある。研究等の固い面だけでなくソフトな面も意識的に考えていく必要があるのではないかと思った。
→（事務局）現時点の区の方針としての基本理念を説明した。当然、漱石山房の記念館ということで漱石文学等の顕彰がひとつの重要な要素にはなるが、一方ではそれ

だけでは多くの人が集いりピーターを増やすということは難しい。ご指摘のあった要素も検討すべきポイントとなると認識している。

→ (中島座長) 次回、類似施設視察があるが、そこでの大きな問題は、木造の建物を復元し、雨ざらしにしてやっていくか、それとも記念館内に展示の一部として復元するのかということ。後ほど類似施設に関する説明もあるので聞いていただきたい。先日、軽井沢で堀辰雄記念館を訪問した。これは、堀辰雄の旧居で、実際に住んでいた建物だが、屋根を葺き替える等の修繕をしていて、部材まで元のままかということ、それは違う。さまざまな技術的な要素があって、復元してもそれが10年20年たつとどうなるかということもある。

- 確認したいのだが、区営住宅は取り壊しが決定しているのか。

→ (事務局) 弁天町の国有地に移転が決定している。住民、地域の方に説明を尽くし、一定の理解を得ている。

→ (中島座長) 区営住宅の敷地に関しては、本計画で利用できると考えて、進めていく。

(休憩)

7 類似施設の紹介

(1) 事務局より、パワーポイントの画像及び資料「類似施設の紹介」に基づき、旧宅等の整備のあり方について、3つの類型にもとづき、類似施設を紹介。

A. 旧宅等+展示・管理施設による二棟構成

類似事例：小平市平櫛田中彫刻美術館、香美市立吉井勇記念館、調布市武者小路実篤記念館等

B. 旧宅等の内部を文学館として利用

類似事例：三鷹市山本有三記念館、熊本市夏目漱石内坪井旧居、大田区立尾崎士郎記念館等

C. 新規施設内に旧宅等を展示再現

類似事例：松山市立子規記念博物館、大田区立山王草堂記念館、北九州市立松本清張記念館等

(2) (1)に関する質疑・意見(要旨)

- 次回見学する類似施設は、どのタイプあたるのか。また、私たちが作っていくハード的なものは、後々の採算性の問題に大きく関わってくると思うが、今まで紹介のあった施設の中で採算が取れている、または取りやすいのはどういうタイプなのか。わかっていたら教えてほしい。

→ (事務局) 次回見学予定は、大田区立山王草堂記念館、大田区立尾崎士郎記念館、小平市平櫛田中彫刻美術館の3施設を予定している。平櫛田中がA、尾崎士郎がB、山王草堂はCとなり、万遍なく見られると考えている。

採算性については、記念館単体で採算をとることは難しいと思う。波及効果まで含めて採算性を考えて行く必要があるのではないか。施設の形によって採算性が変わるというよりは、どういう運営をしていくか、どういった機能を持つかということだと思う。例えば、公園などと一緒に整備する等、文学館以外の活動を積極的に行うことで入場者数を増やすことが考えられる。

- ・今後、管理運営主体がどこかを中心に見ていく必要が出てくると考えている。新宿区で言えば、佐伯祐三アトリエ記念館は新宿区が公益財団法人新宿未来創造財団に委託している（指定管理）。

ロンドン留学中の漱石はカーライル博物館を非常に気に入っていて、特に4階の書斎に興味を持っていた。そこで注目すべきは蔵書。ロンドン滞在中の漱石は、蔵書・愛読書がどのように配置されていたかに興味を持ったようなので、何か検討していく方法があればおもしろいと思う。

8 次回の告知

- (1) 次回は10月20日（土）午後に、小平市平櫛田中彫刻美術館、大田区立山王草堂記念館、大田区立尾崎士郎記念館の3施設の見学会を予定。午後1時ということで集合時間を設定していたが、交通事情等を勘案し、午後12時30分集合、45分出発に変更することについて、了承を得た。
- (2) 第4回目は11月10日午前に予定。当日午後、11月1日にオープンする文京区立森鷗外記念館等の見学会を予定している。当初予定がなかったため、自由参加とする。

9 整備予定地見学

- (1) 区立漱石公園に移動し、見学後、現地にて閉会。

以上